

この愛すべてに涙する (All this love made me cry / كل هذا الحب أبكاني)

戦争の中でも、すべてが闇に包まれているわけではありません。そこには、太陽の光のように、心と魂を喜ばせる真っ白な輝きが差し込む瞬間があります。戦争は物事を露わにします。人々はその本性をさらけ出し、天使のような人はその善良さを最大限に示し、悪魔のような人はその醜さを浮き彫りにします。偽善的に祈りを捧げていた人々はその祈りをやめ、生活の厳しさに顔を曇らせていた人々はその表情を清らかで純粋なものに変えます。人々は本来の姿を現します。戦争を通じて、誰もが抱えていた多くの問いが明らかにされ、その答えが得られました。この先、戦争が終わった後も人々は以前のように戻れないでしょう。

戦争の中で、私は自分の職業、そして舞台の上で過ごしてきた人生を愛しました。演技、演出、指導、執筆、旅、そして長い時間を劇場の中で過ごすことに費やしてきた日々を。劇場で過ごした時間が家族と過ごした時間を超える中で、いつも自問していました。「劇場はこの疲労、この犠牲、成功や失敗への緊張、そして恐怖に値するのか？」と。演技中、心臓が止まりそうなほどの痛みを感じたこともありました。緊張とその後の解放、その戦い。私たちは台本の示しに応じて自分自身と感情を曲げることもあります。

この職業は、美しさも、残酷さも、終わりも、目標も限りなく広がり、まるで未知のものと格闘しているかのようです。私たちは常に最高を求め続け、さらに良いものを探し続けます。ほとんどの場合、自分の演技を見返しません。それは、自分に満足できず、「こうしていれば……あれをしなければ……」と思いつけるからです。この「もし」は終わることはなく、何千年も続いてきました。私の仲間たち — 舞台俳優、作家、映画監督、美術家、歌手、創造的な職業に就くすべての人たち — 想像力と格闘する皆さんは、私と同じ葛藤を抱えています。

日々は瞬間の積み重ねです。戦争の中であって私の大きな家族であるあなたたちがその瞬間を楽にしてくれました。あなたたちのすべての電話、言葉、行動、書かれた文字が、私の不屈の精神と希望の存続のための避難所でした。あなたたちを愛しています。そしてこの職業も愛しています。また、私たちを長年愛し続け、戦争の闇にあっても、パンの行列や市場の人混みの中で私に声をかけてくれる愛する観客たちも忘れることはありません。「アリーさん、お元気ですか？あなたの作品は全部見ました。何かお手伝いできることは？」その言葉は、戦争や行列、そして瞬間の厳しさを忘れさせてくれます。

愛する舞台よ、この悪夢が終わり、再びあなたの上に戻り、世界を音、美しさ、生命、愛、そして平和で満たす日が来ることを願っています。

2024年2月14日

アリー・アブー・ヤースィーン

訳 藤田ヒロシ